

令和7年度「SDGsの実現に向けた教育推進事業」取組内容

埼玉県川島町立つばさ小学校

1 育成する能力

持続可能な開発のための教育（ESD）における7つの資質・能力

1. 批判的に考える力
2. 未来像を予測して計画を立てる力
3. 多面的・総合的に考える力
4. コミュニケーションを行う力
5. 他者と協力する態度
6. つながりを尊重する態度
7. 進んで参加する態度

2 研究概要

(1) 取り組む SDGs の目標



(2) 研究主題

『世界にはばたく人財が育つSDGsの実現に向けた教育の在り方』
～ ESDを通して育成する資質・能力を重視した授業改善～

(3) 研究仮説

【仮説1】

ESDを通して育成する資質・能力を重視した授業改善を行うことで、持続可能な社会の創り手となる児童を育成することができるであろう。

【仮説2】

地域資源、人材を活用したり、学校環境を整備したりすることで、身近な諸課題に触れ、自分事としてとらえて、主体的に行動に移せる児童を育成することができるであろう。

3 企業・団体との連携

(1) 連携・協働した企業・団体

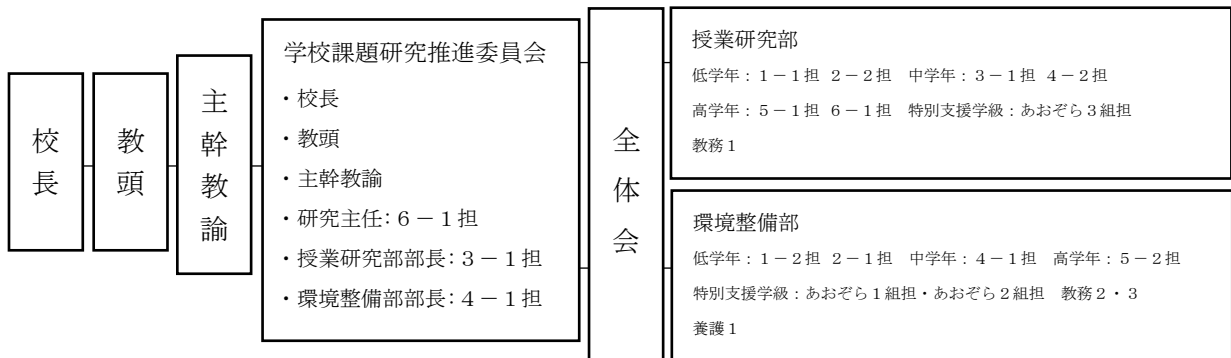
- ①公益財団法人 日本生態系協会
- ②荒川太郎右衛門地区自然再生協議会
- ③国土交通省 荒川上流河川事務所 河川環境課
- ④公益財団法人 埼玉県生態系保護協会
- ⑤NPO法人 荒川の自然を守る会
- ⑥江戸川区立小松川小学校
- ⑦荒川区立尾久宮前小学校
- ⑧しののめキッズパーク保育園

(2) 連携・協働した主な内容

○対象学年 第 3 学年
○教科等名 総合的な学習の時間
○主な取組内容
・三ツ又沼ビオトープにおけるフィールドワークの実施(6月・11月) (県の蝶であるミドリシジミが舞うハンノキ林の観察、外来植物の駆除等)
・植え戻したハンノキの継続的な観察
・総合的な学習の時間における調べ学習・まとめの発表 等
○対象学年 第 4 学年
○教科等名 総合的な学習の時間
○主な取組内容
・荒川太郎右衛門地区自然再生地における自然保護活動の実施(5月・10月) (荒川太郎右衛門地区自然再生協議会の指導の下、動植物在来種の保護を目的に、外来種(ハリエンジュ)の除草や絶滅危惧種植物(カワラナデシコ)の移植)
・オンラインでの小学校・保育園との体験交流会
・総合的な学習の時間における調べ学習・まとめの発表 等

4 研究内容

(1) 研究組織



(2) 研究の流れ

活動実施日	研修会・部会・研究授業等	内容
5 / 1 4 (水)	学校課題研究全体会	今年度の研究の方向性確認
5 / 1 6 (金)	学校課題研究全体会	研修計画と学校課題研究内容の方向性確認
5 / 3 0 (金)	学校課題研究全体会	日程・組織等の研究概要の確認 専門部会の決定
6 / 1 3 (金)	校内研修	各学力調査結果から見とる児童理解 授業改善記録シートの活用方法
6 / 1 6 (月)	学校課題研究全体会	研究主題・専門部長の決定 夏季休業までの研究活動確認
6 / 1 9 (木)	学校課題研究全体会	N R T 結果分析

7 / 2 (水)	学校課題研究環境整備部	E S Dアンケート内容改訂及び実施スケジュールの調整
7 / 10 (木)	学校課題研究推進委員会	指導案内容の検討
7 / 11 (金)	学校課題研究環境整備部	第1回E S Dアンケート実施
7 / 22 (火)	学校課題研究研修会	E S Dカレンダー作成研修
8 / 20 (水)	校内研修＋ 学校課題研究全体会	教育委員会による授業力向上研修 2学期の研究活動・日程の確認
8 / 21 (木)	学校課題研究全体会	全国学力調査結果分析
9 / 3 (水)	学校課題研究環境整備部	第1回E S Dアンケート 結果集計・分析方法の検討
9 / 10 (水)	学校課題研究全体会＋ 推進委員会	埼玉県学力調査結果分析 研究紀要作成内容の検討
9 / 12 (金)	学校課題研究全体会	研究紀要の内容確認及び 執筆担当箇所の決定
10 / 27 (月)	学校課題研究環境整備部	第2回E S Dアンケート実施
10 / 31 (金)	学校課題研究全体会	S D G s 研究先行授業
11 / 18 (火)	S D G s 研究本発表	
12 / 15 (月)	校内研修(中学校合同)	部落史研究会 吉田勉氏による 歴史学習
1 / 9 (金)	学校課題研究全体会	3学期の活動内容・日程確認
1 / 16 (金)	学校課題研究全体会	第3回E S Dアンケート実施
1 / 26 (月)	学校課題研究全体会	第3回E S Dアンケート集計・分析
2 / 20 (金)	学校課題研究全体会	C R T結果分析
3 / 9 (月)	学校課題研究全体会	研修のまとめ

(3) 取組

今年度は、つばさ南・北小が過去2年間に取り組んだ研究内容から精選し、以下の4つの取組を中心に研究を進めてきた。

- ・ S D G s 教育導入のための環境整備
- ・ E S Dで育てる資質・能力を意識したカリキュラムマネジメント
- ・ 地域環境、人材を活用した自然学習の継続
- ・ 各種学力調査分析による「児童理解」と教育委員会との協同による「授業改善」

統合後、つばさ南・北両校児童の間には、これまでのS D G sに関する取組の違いから、知識の格差があることがわかった。この格差をなくし、1年生でも簡単に親しめるS D G s教育の土台を築くため、その知識を自然と吸収できる環境整備を実践のスタートとした。

学習課程の編成においても、生活科と総合的な学習の時間を核とし、他教科と相互に寄与でき

る力を養えるように、各学年でESDカレンダーを作成し基礎とした。教師はこのカレンダーに基づき、ESDで育てる資質・能力を明確にした上で、授業に臨んできた。子ども達の資質・能力が発揮される場として、これまで両校が行ってきた地域の自然保護団体との学習活動も継続している。三ツ又沼ビオトープ・荒川太郎右衛門地区自然再生地での草花の観察・保護活動を行い、中学年児童は、5月から10月まで断続的に現地に出向き、在来植物の播種や外来植物の除草作業に励んだ。また、教師の授業力改善も引き続き、教育委員会のご指導・ご支援の下で行い、指導者の授業参観を受け、「授業改善シート」に記された改善点と優れた点を、次の授業に生かすことを繰り返した。

5 成果と課題

○ 児童生徒の声や変容

児童のESDに関する能力の向上を見極めるため、その評価方法として、7つの資質・能力に関する質問を、児童に4点法(よくあてはまる・あてはまる・あまりあてはまらない・あてはまらない)で回答させる「ESDに関する能力についてのアンケート」を採用した。7月と10月に行ったアンケート結果を比較すると、選んだ回答の割合が大きく変動していた、この変動は、「SDGsの木」に取り組むことで、7つの資質・能力が子ども達に周知徹底されたこと、「草花プロジェクト」や「ESDカレンダー」に基づく授業を経て、自ら意識する機会が多かったことに起因する。自分にその資質・能力が備わっているか、より7つの資質・能力を自分事として捉え、回答できるようになったことが、変容の一つとして挙げられる。

○ 学校全体の変容や先生方の声

ESDカレンダーを全学年で作成したことにより、7つの資質・能力の内のどれに焦点を当て、授業を展開させていけばよいか明確になった。このことは、教員の目的意識を高め、授業を円滑に進めるのに有効だった。しかし、焦点化した資質・能力と、教科や単元が本来もつ特性やねらい、テーマ(SDGs)と両立させる必要があったため、単元を通して、そのための工夫を計画時に盛り込み、実践しなければならない苦労があった。

○ 連携した企業・団体の声

自然再生の一環として、「荒川の草花を育てよう!プロジェクト」に、つばさ小学校の前身である、つばさ南小とつばさ北小の頃から、参加してもらっていました。この取組は、荒川の草花の種を育てて増やし、植え戻すものです。こうした子どもから大人まで地域のみなさまとの一つ一つの取組が、太郎右衛門地区の自然再生につながります。つばさ小学校のみなさんには、これからも継続的な関わりにより、自然再生地を、貴重な動植物にとってさらに素敵な場所にしてほしいと考えています。

(2025年11月18日、本発表時の日本生態系協会さんの話を一部要約)

○ 今後の課題

今年度は7つの資質・能力の評価方法を、児童に4点法で回答させる「ESDに関する能力についてのアンケート」を採用した。アンケート結果を分析する過程で、教員から、資質・能力の有無を自己評価のみで判断・評価することに疑問の声が上がった。また、公平性と客観性を供えた評価方法や、それに伴う基準の設定を確立していくことが課題として挙げられた。